

促進するために、インターネットを利用することを承認しました。この提案されたAPPREBウェブサイトの内容は、メンバー国の図書業界に関する情報を提供し、地域内で出版されている本を購入したいと思っている読者にサービスを提供するというものでした。

ACCUの精神を引き継いで

ACCUはまさに、アジア太平洋地域を結びつけ、その中心となって、図書と読書の推進に向けて、様々なアイデアと活動の情報交換と普及を推進してきました。しかし、その使命はまだ全うされていません。多くのアジア諸国においては、出版産業は持続可能なレベルではありませんし、本も貧しい家庭にはいまだに手が届かない存在です。読み書きができない人も多くの地方で存在しています。要

するに、より識字率の高い、より機能的なアジア人世代の実現に向けてやるべきことがまだ多く残っているのです。

図書開発に関するACCUの活動は終わりを告げようとしていません。私たちにはそれを止めさせることはできませんが、この専門家会議が、ACCUが過去35年間にわたって育ててきた精神の終焉会議となつてはいけません。そうではなく、ACCUが私たちの地域で始めたことを続けていくのだと今度は私たちが固く決意すべき時なのです。私たちはACCU精神を永続させるために私たちの時間を注ぐべきです。私たちは個人としてあるいは団体として、ACCUの例に倣うべきです。第一にアジアの人々の能力に対するACCUの信念と信頼です。第二は、図書を推進し、出版産業を育てるという目標を達成するために、共同作業やネットワーキングの価値に対してACCUが示したリーダーシップです。皆さん、私たちがこれらを引き継いで、この会議から始めていこうではありませんか。

アジア太平洋における

図書開発と読書推進に関する専門家会議 (12月8~10日)

文：土屋恵里（文化協力課）

ACCUが来年度から新しい体制でスタートすることが決まりました。これを機に、ACCUの39年間続いた図書開発事業に終止符を打つことになったため、その成果を評価しACCUの図書開発と読書推進に関する精神や活動方針をアジア太平洋地域の関係機関に引き継ぐために、東京で専門家会議を開催しました。図書開発・読書推進の中心的役割を果たしている関係機関からの代表者とACCUの図書開発事業への協力者を18カ国から20名招へいしました。

12月8日と9日の会議では、2名の方に基調講演をしていただきました。ヴィルヒリオ・アルマリオ氏（詩人・前フィリピン大学文学部長）は過去30年以上に渡るACCUの図書開発事業について振り返り（本誌P.2-6参照）、土門康男氏（講談社エディトリアル代表取締役）は出版産業と読書推進の現状と将来について問題提起されました。それをもとに、各国の図書出版の現状が共有され、ACCUがこれまで行ってきた図書開発と読書推進事業がアジア太平洋地域および各国に与えた影響や成果について発表し合いました。

また、ACCUが図書開発・読書推進プログラムを締めくくることについて各国が確認し、理解を得ることができました。今回の会議の場では、将来的な域内の協力体制についてリーダーシップを取る組織について確認するには至らなかったものの、数カ国の参加者から今後検討して行きたいとの意思表示がありました。

また、3日目のプログラムとして、シンポジウム「アジア太平洋における地域協力の現在-文化と教育の発展のために」を教育協力課と合同で開催しました（本誌P.7-8参照）。

新しい時代の中、過去の事業をそのまま行うのではなく、新し

く、創造的なアプローチで図書開発・読書推進事業に取り組んでいく必要があると思います。中国や韓国の参加がなかったのは大変残念に思われますが、ACCUの図書開発・読書推進事業に貢献してくださったすべての関係者に感謝しつつ、ACCUが図書事業から撤退した後も、図書開発・読書推進プログラムが地域レベルで発展していくことを願っています。



セッションの様子



プレゼンテーション後の活発なディスカッション



基調講演者から多くのインプットがあった